資料3

石狩浜海岸林の保護林新設について

令和6年12月3日

北海道森林管理局

目　次

1 保護林設定に向けた検討について　・・・1～3

2 今後の対応について　・・・4

（参考）

1 石狩浜海岸林の概要

2 石狩浜海岸林における森林生態系多様性調査の結果(概要)

3 石狩浜海岸林の希少野生生物

1 保護林設定に向けた検討についてー１

〇設定にあたっての基本的な考え方

　北海道森林管理局としては、次の観点を踏まえ、石狩浜海岸林及びその周辺地域などの関係自治体との調整等を進め、保護林設定に向け検討しているところ。

１　森林の持つ公益的機能の発揮

２　地域振興への寄与（石狩市、小樽市）

３　カーボンニュートラル実現への貢献

1 保護林設定に向けた検討についてー２

名称：**石狩浜海岸林生物群集保護林**

　石狩浜は、石狩湾に面する浜堤平野の名称として定着していると考えられる。

　また、海岸林特有の生物群集であることがイメージできるような名称とする。

区域：次ページ参照

1 保護林設定に向けた検討について－３

石狩浜海岸林生物群集保護林（新設）

新設理由等	・石狩浜海岸林は、1850年代から乱伐が禁止され保存されてきたことにより、今でも原生的な自然が多く残されている。 ・浜堤平野という特殊な地形に存在する独特の森林生態系が存在する。 ・日本国内において、まとまった面積で、自然状態が十分保存された海岸林は石狩浜海岸林のみとなっている。
保護対象と生息･生育区域	・石狩浜海岸林の生物群集を有する森林（約600ha） 　ただし、ニセアカシア（外来種）が高密に侵入している区域は除く。 　また、海水浴場に接し、人為的影響が継続する部分の森林も除く。
現状と想定される影響等	・石狩浜海岸林が存在する地形は長時間かけて出来上がった浜堤平野である。 ・植生は海側から海岸草原-カシワ（風衝型）-カシワ群落-カシワ・ミズナラ群落となっており、同様の植生が横断的に石狩海岸沿いに続いている。 ・石狩浜海岸林を含む石狩浜は、北海道自然環境保全指針で定める「すぐれた自然地域」に指定されている。 ・風力発電施設の設置計画が示されていることから、これとの調整を図る必要がある。
地帯区分（案）	全域を保存地区とする。

2 今後の対応について

〇設定にあたって配慮すべき事項

　既設風車の影響調査が実施されていることから、その結果および関係自治体の意見など踏まえ、保護林として管理していく考え。

　また、生物多様性を含む森林の公益的機能の発揮、地域振興やカーボンニュートラルの３つが調和するような形で保護林の設定を進めていく考え。

参　　考

1 石狩浜海岸林の概要　　・・・　1～5

2 石狩浜海岸林における森林生態系多様性調査
　の結果（概要）　　・・・　6

3 石狩浜海岸林の希少野生生物　・・・　7～9

参考１　石狩浜海岸林の概要－１

石狩浜海岸林の沿革

石狩森林管理署が管轄する石狩浜海岸林については、1850年代に石狩役所が乱伐を禁止する布令を出して保護したところ。

その後、昭和22年の林政統一により札幌営林署（(現)石狩森林管理署）が管理することとなり、当該森林を防風保安林に指定し、引き続き管理している。

これまでの間には、理由は不明であるが小規模な伐採が行われ、原生林の姿が失われた箇所もあるが、現在も原生的な森林が多く残されていると考えられる。

このほか、石狩浜海岸林に隣接する石狩浜は、海岸砂丘地形、大規模な海浜植物群落、日本最大規模のカシワ天然海岸林、これらが織りなす海岸砂丘特有の生物多様性に富んだ自然が大規模に残された全国的にも貴重な自然海浜であることを理由に、北海道自然環境保全指針で定める「すぐれた自然地域」に指定されている。

（参考）日本国内の海岸林の状況

日本の海岸林の大部分は人工林であり、その植栽は江戸時代に始まっている。

北海道では、江戸末期からニシン漁が盛んとなり、多くの海岸林が、ニシン粕製造のための燃料として伐採された。

このため、天然林としての海岸林は、ほどんど残されていないと考えられる。

※資料：太田猛彦（海岸林形成の歴史）、小泉聡美（漁業と森林）

参考１　石狩浜海岸林の概要－２

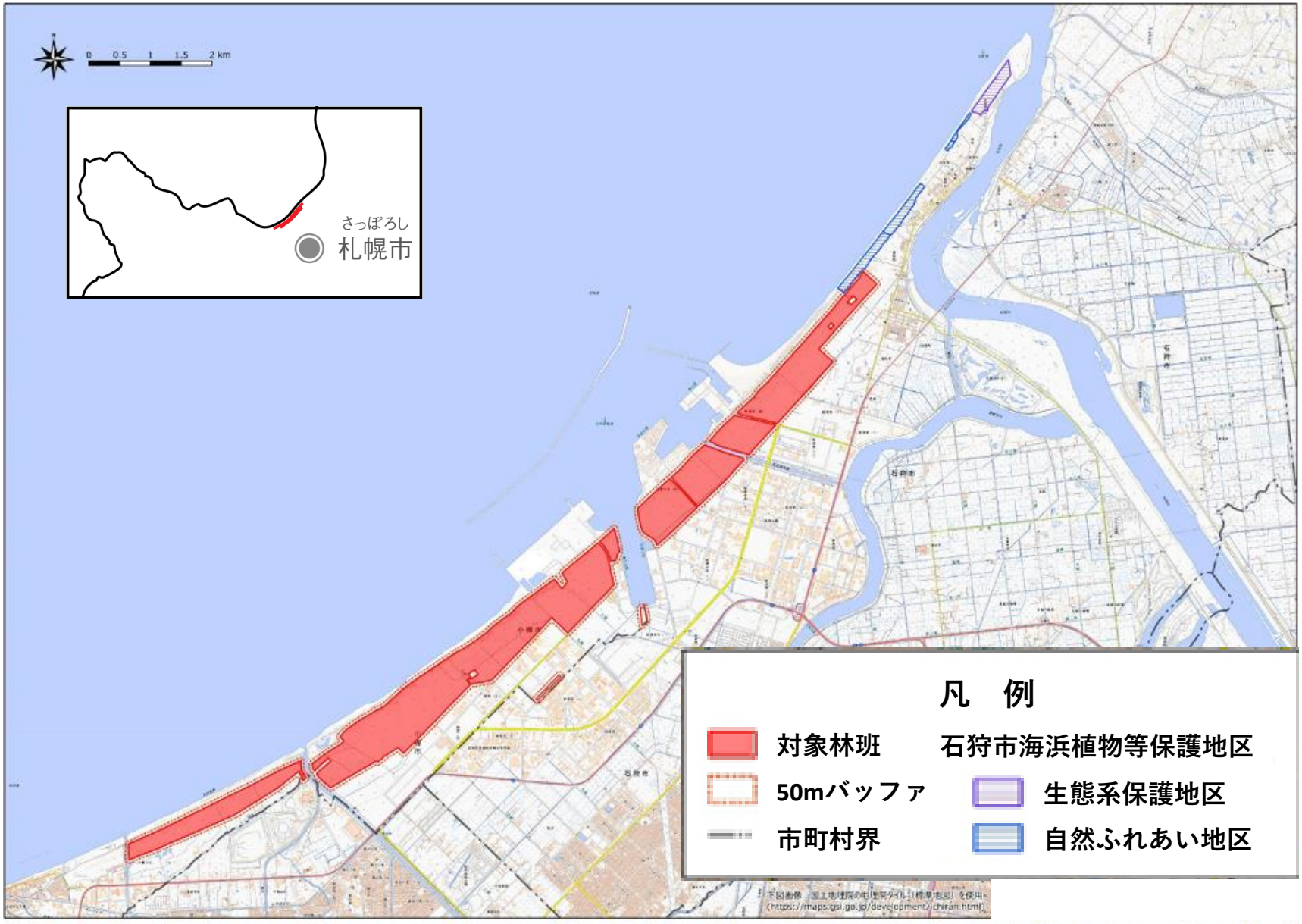
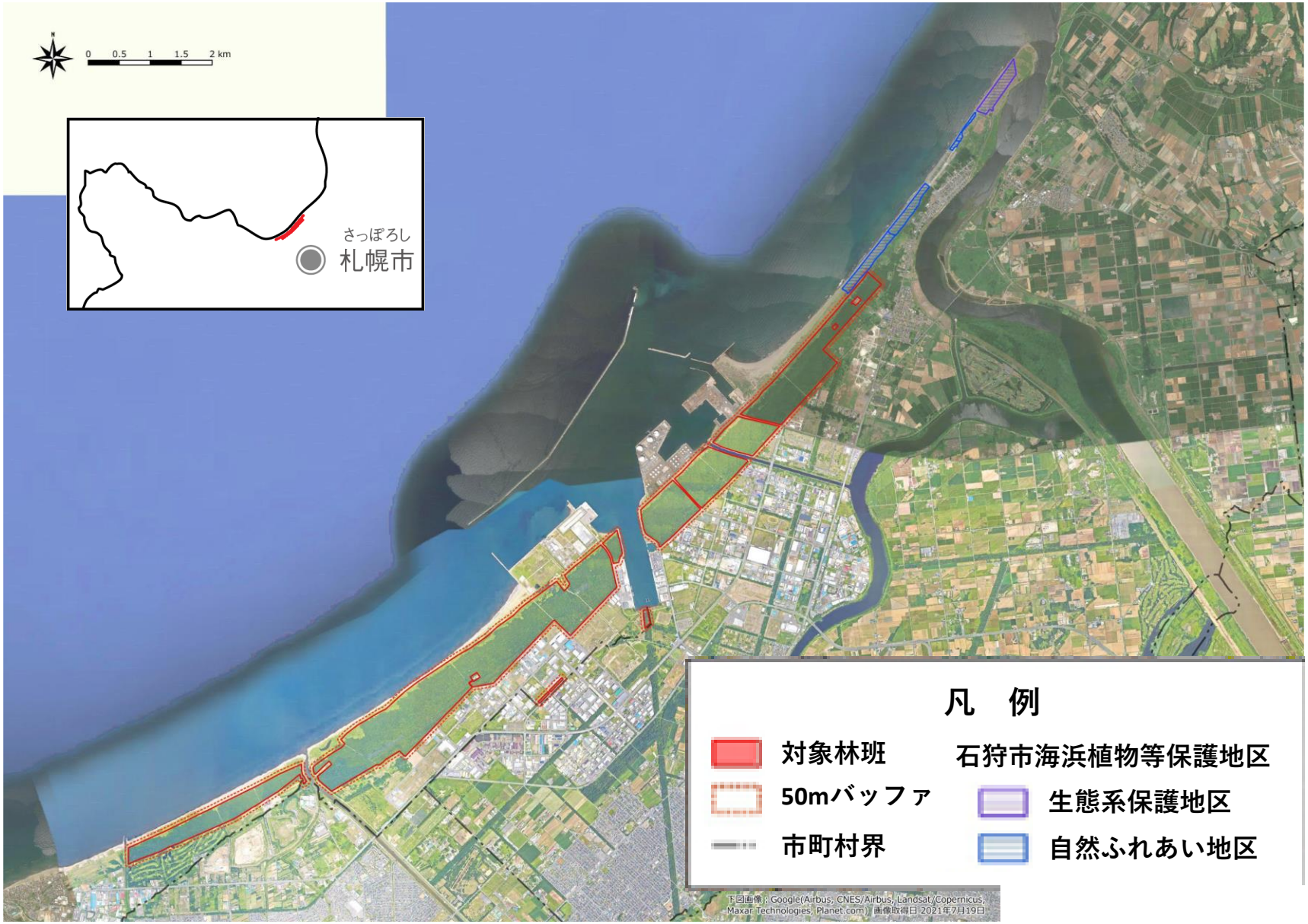


図１ 石狩浜国有林　位置図（地形図ベース）

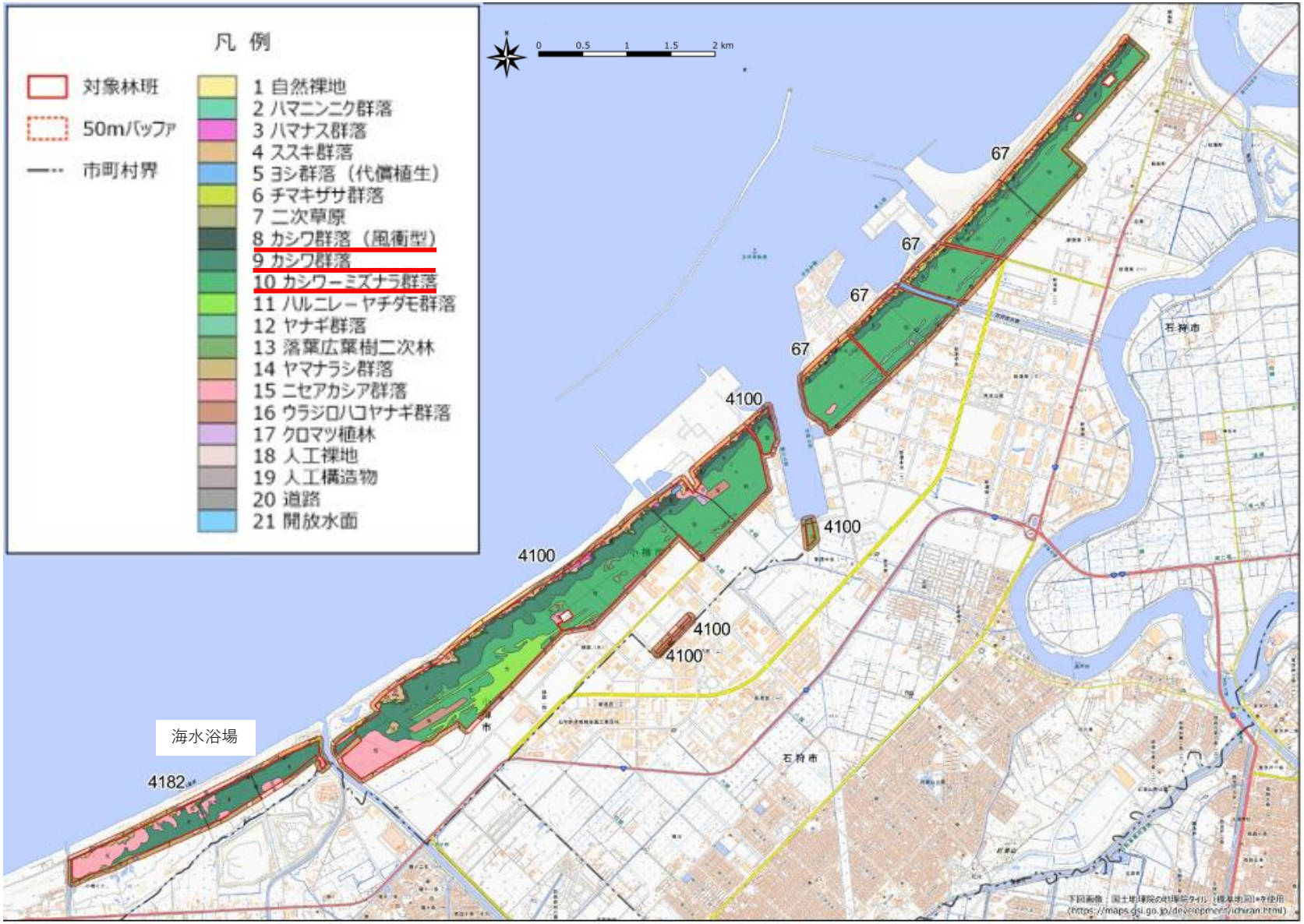
参考１　石狩浜海岸林の概要－３



衛星画像

参考１　石狩浜海岸林の概要－４

植生図（石狩浜海岸林における森林生態系生物多様性調査の結果）



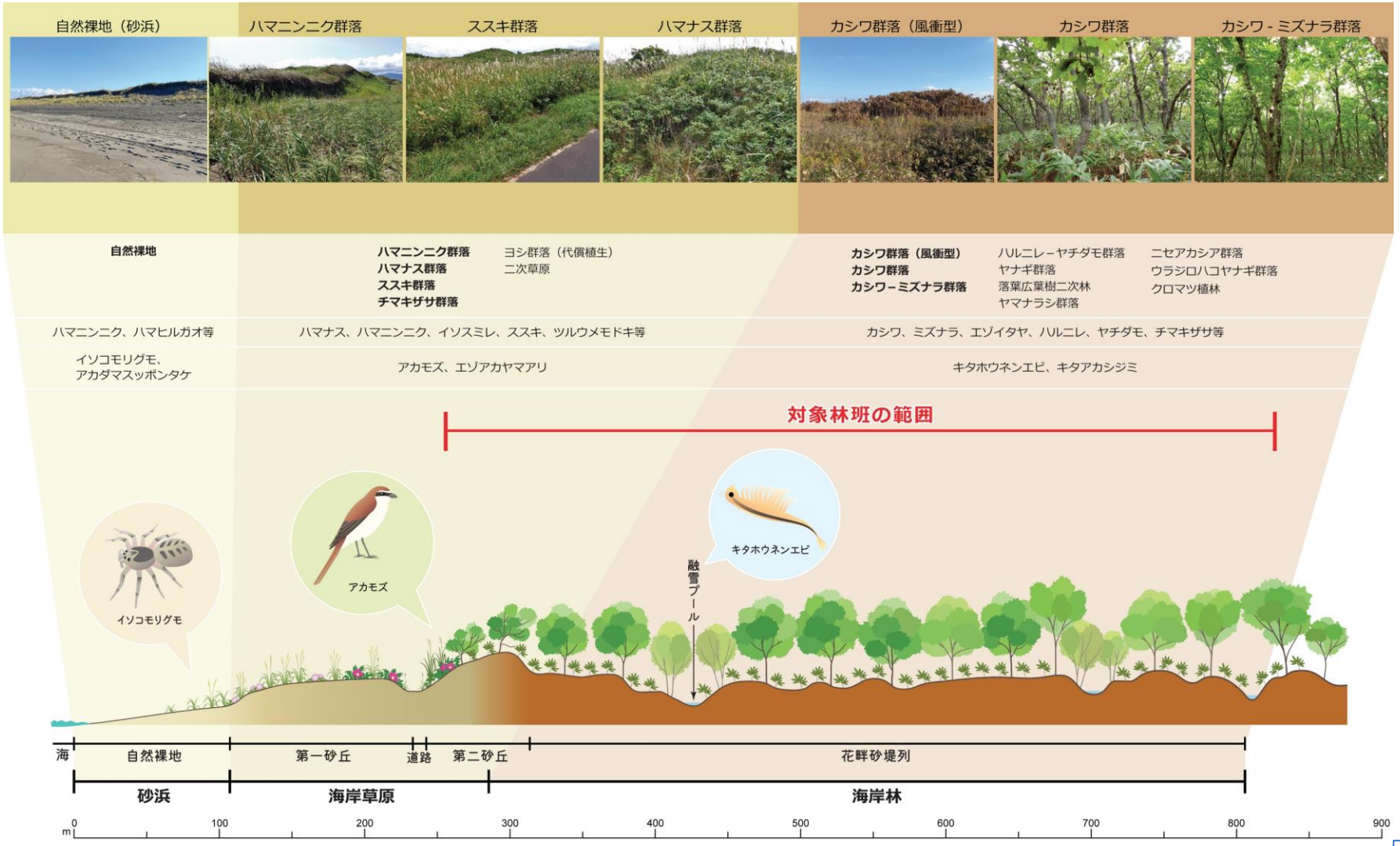
石狩浜　全体植生図

資料：北海道森林管理局（石狩浜海岸林における森林生態系生物多様性調査）

参考１　石狩浜海岸の概要－５

石狩浜では海から陸に向かって以下のような森林植生等が繋がっている。

このような森林植生等が、石狩市から小樽市にかけての浜沿いに25km程度存在している。



※断面図の形状は国土地理院の基盤地図情報サイトから数値標高モデル（5m）を取得してラスタ画像を作成した後、QGIS 3.28.5 で Profile Tool を使用してラスタ画像から断面図を作成した。

参考文献：石狩浜ブックレット 石狩浜の昔と今と、これから 海浜植物保護センター 20 周年実行委員会 2021.
石狩湾新港風力発電所に係る環境影響評価書 エコ・パワー株式会社 2016.

参考２ 石狩浜海岸林における森林生態系多様性調査結果（概要）

令和５年度に北海道森林管理局による石狩浜海岸林の森林生態系多様性調査を実施。以下、概要を記載した。

1　海岸林調査

主要群落は①カシワ群落(風衝型)②カシワ群落③カシワ－ミズナラ群落

2　隣接海岸草原　植生調査

主要群落は①ハマナス群落②ススキ群落

3　希少種、特徴的な動植物

アカモズ（環境省レッドリスト：絶滅危惧ⅠＢ類）

イソコモリグモ（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）

キタホウネンエビ（環境省レッドリスト：情報不足）

エゾアカヤマアリ（環境省レッドリスト：絶滅危惧Ⅱ類）

アカダマスッポンタケ（環境省レッドリスト：絶滅危惧ⅠＡ類）

参考３　石狩浜海岸林の希少野生生物－１

アカモズ

アカモズは、環境省レッドリスト2020では絶滅危惧ⅠB類に、北海道レッドデータブックでも絶滅危惧ⅠB種に指定されている。

モズに比べ生息環境は限定的であり、主に低木のある自然草地で繁殖する。

繁殖に成功したアカモズは、前年と同じ繁殖地に戻ってくる傾向があり、生息地の環境破壊による影響を受けやすい種であった（Philopatry and habitat selection in Bull-headed and Brown shrikes.　J. of Field Ornithology, 74(1):45-52 (2003)）。

アカモズの生息環境を把握するため、「-アカモズの郷-いしかり希少種保全事業業務報告書」に記載されている石狩川河口周辺のアカモズの生息情報を元に確認した。

その結果、アカモズが確認されている場所の一部は、石狩浜海岸林が含まれていたため、現地で確認した結果、カシワ林に隣接した草地で生息していることが判明した。

写真の出典：森田,2015,道外で撮影

イソコモリグモ

イソコモリグモは、環境省レッドリスト2020では絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。

北海道から島根県までの日本海沿岸と茨城県までの太平洋沿岸のごく一部、良好な自然が維持された砂浜に限り局地的に分布する。

イソコモリグモが生息するのは自然の砂浜に限られる。波打ち際に並行して、海浜植物が帯状に分布している海浜植物帯の周辺の砂地に好んで巣をつくる。

海浜植物群落が成立しない砂浜は、踏みつけやその他の人為圧が強すぎるなどの理由でイソコモリグモが必要とする自然状態を維持していないと考えられる（八幡,2009,日本自然保護協会）。

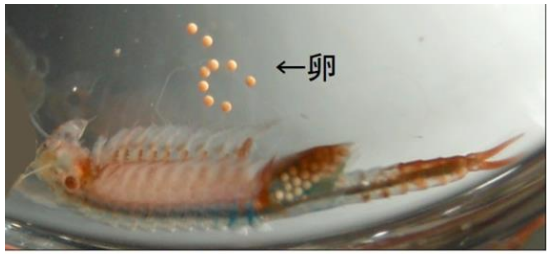
写真の出典：八幡,2009,日本自然保護協会

参考３　石狩浜海岸林の希少野生生物－２

石狩浜海岸林における特徴的な種（国有林内に限る）

キタホウネンエビ

キタホウネンエビは、環境省レッドリスト2020で情報不足に指定されている。
体長が2.5cm程度の淡水性甲殻類で、日本の固有種である。
生息地は北海道石狩湾岸と青森県むつ市の山中でのみ知られている。
本種は、融雪期に窪地に水がたまってできる天然の一時的融雪プールに発生する。
分布は防風保安林の中に限定されている。



キタホウネンエビ（メス）と卵

（写真の出典：石狩ファイル,2010,石狩市教育委員会）

写真の出典：石狩港新港地域浮遊生物(キタホウネンエビ),
1998-2002,北海道環境科学研究センター

エゾアカヤマアリ

エゾアカヤマアリは、環境省レッドリスト2020で絶滅危惧Ⅱ類に指定されている。
体長4.5～7mm。
明るくやや乾燥した環境に営巣し、枯草や針葉樹の葉を用いてアリ塚を形成する。
石狩では、全長10km以上の海岸沿いに分布する巣において敵対関係が見られないスーパーコロニーの存在が知られており、学術的に重要な現象として1983年にIUCNレッドデータブックに登録されている(IUCN, 1983, The IUCN Invertebrate Red Data Book)。
この地域では、エゾアカヤマアリの主な営巣環境は、海岸砂丘から防風林の林縁である。

参考３　石狩浜海岸林の希少野生生物－３

アカダマスッポンタケ

アカダマスッポンタケは、環境省レッドリスト2020で絶滅危惧ＩＡ類に指定されている。

本種は海岸砂地に単生もしくは2～3個が合着して発生する。発生時期は夏と秋の年2回である。子実体は約20cmまで成長する。傘の部分にはグレバと呼ばれる粘液状のものが付着し、独特の臭気を放つ。基部から地中深くに菌糸を伸ばし、コウボウムギやハマニンニクなどの海浜植物の枯葉や枯れた茎、地下茎に絡み付く（糟谷ほか,2007,日本菌学会）。

本種の確実な採集記録としては石狩市と斜里町の2箇所のみである。

本種は砂地、特に海岸砂丘に好んで発生し、石狩市ではハマニンニクやコウボウムギが優占する海岸砂丘で採集されている（糟谷ほか,2007,日本菌学会）。このように本種は海浜植物が繁茂する砂地に依存する種であり、海岸草原の改変による影響が甚大と考えられる。

写真の出典：石狩ファイル2018,石狩市教育委員会いしかり砂丘の風資料館